

日语阅读辅导：感知春天 PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

[https://www.100test.com/kao\\_ti2020/203/2021\\_2022\\_\\_E6\\_97\\_A5\\_E8\\_AF\\_AD\\_E9\\_98\\_85\\_E8\\_c105\\_203007.htm](https://www.100test.com/kao_ti2020/203/2021_2022__E6_97_A5_E8_AF_AD_E9_98_85_E8_c105_203007.htm) 赤信号に立ち止まった交差点で春を知る朝がある。ついきのうまではコトの襟に首をめて辛抱していた同じが、あまりく感じられない。そういう朝がある某一个早上，我停在十字路口等候红灯，感知到了春天的来临。昨天的同一时间,我还将脖子缩进大衣领里辛苦地等候着,而今天却觉得那时间并不那么漫长了。我经历了如是的早上。暖冬とはいえ早春のことではまだ冷たいが、ポケットから出した手に受ける日差しは心なしかやわらかい。例年よりも季感の乏しい折、交差点で味わう数十秒の春が一重なものに感じられる虽是暖冬，然，早春的晨风依然寒冷。而把双手从衣袋中伸出，接受阳光的爱抚，也许是心理作用吧，感觉那阳光很柔软。在季候感不如往年明显的时节，于十字路口感知到的这几十秒的春天显得更为可贵。人の伊藤桂一さんに「微」とするがあった。「掌（て）にうける / 早春の / （ひ）ざしほどの生甲斐（いきがい）でも / ひとは生きられる」。この1年、ささやかな生甲斐をもなくし、みずから命をった若い人はどれほどの数にのぼるだろう人伊藤桂一曾写有题为《微》的诗歌。“双手沐浴着/早春阳光般的/有意义的人生/我们一定能够实现”。近1年来，有多少年轻人尚未过上些许有意义的人生便自绝于命啊！命が粗末にわれがちな世相の木枯らしに、身を挺（てい）して抗（あらが）った人もいる。路に入った女性を保しようとしてにはねられ、重体となっていた警常台

交番の本邦彦巡部（53）が亡くなった但也有人挺身而出，对动辄轻生的炎凉世态发出抗争。为保护误入轨道的女乘客，警常台派出所的警察部部长本邦彦（53岁）被电车撞伤，病笃身亡。译注：巡：警察世の中には、あなたの命を命がけで守ろうとする人もいるのだ…。本さんの（のこ）した言の叫びが生き惑う人たちにとって、望の手前で踏みとどまる「ざしほどの生甲斐」になることを信じている这个世界上，竟有人为保护你的生命而不惜牺牲自己的性命呢！我相信，宫本留给后人的无声呐喊，一定有益于生活迷茫的人们在绝望之际悬崖勒马，实现“阳光般有意义的人生”。どこの街を歩いていても、交番をかけるたびに本さんの面影がそこに重なるだろう。交差点で春のれを知る季はやがて移りゆくとも、胸の手のひらで受けた日差しは忘れまい。无论走在哪条街上，每当看到交通岗亭，就会浮现宫本的面容吧。不久，在十字路口感知春天来临这样的季节将会过去，但是，双手沐浴阳光时心中的温暖一定不会忘记吧。

100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问  
[www.100test.com](http://www.100test.com)